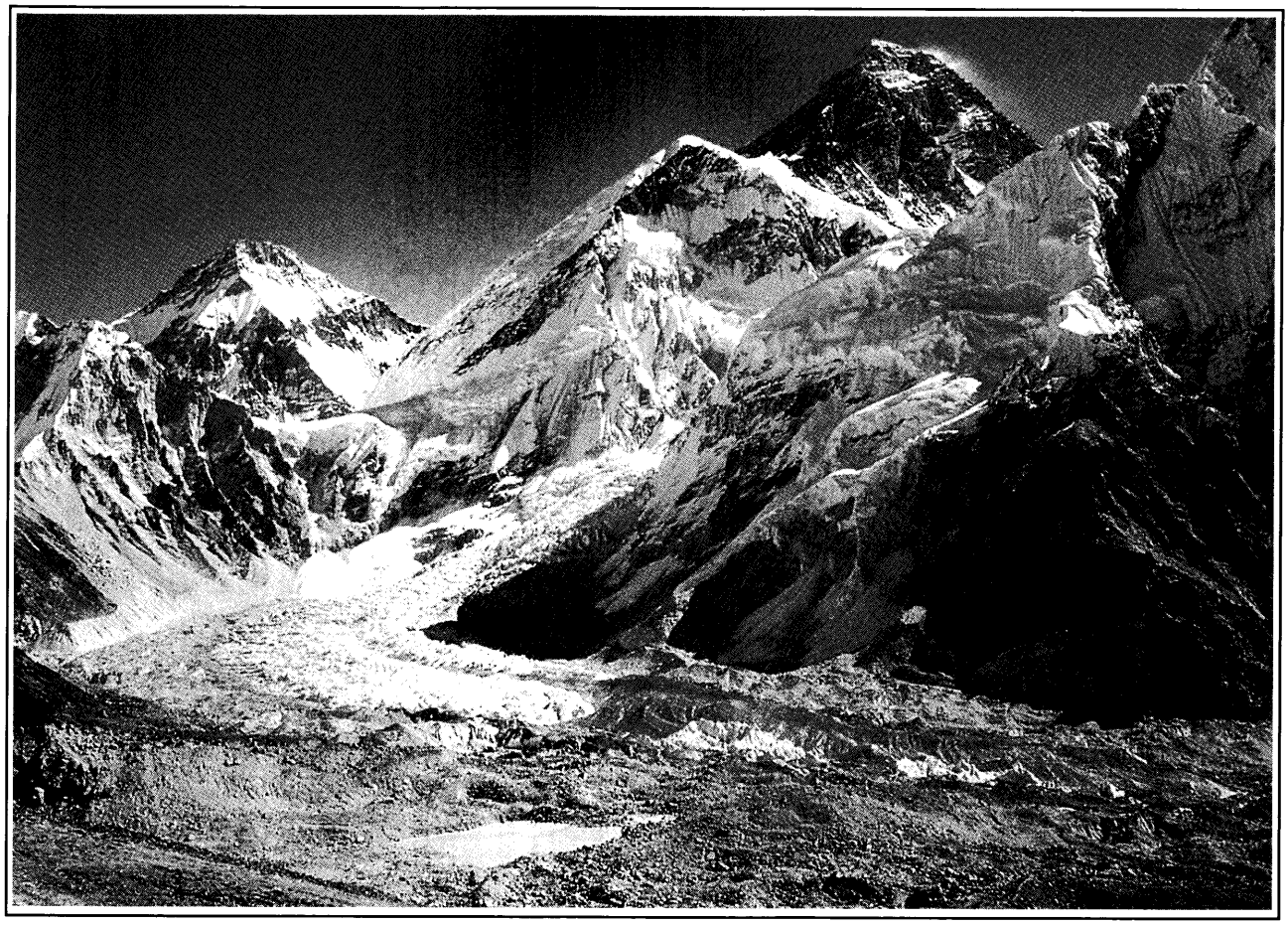
臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成19年(2007)新春号

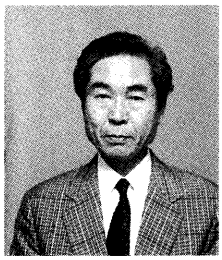


新潟県立村松高等学校東京同窓会　No. 42

明けましておめでとうございます。

今期の課題

東京同窓会会長　鈴木　多喜男（高４回）



昨年６月の定期大会に於いて、今期の会長として承認されましたので新役員を選任し、皆様にご紹介致しますと共に倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

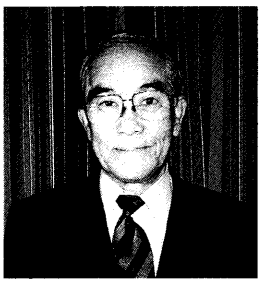
また、佐伯前会長を始め旧役員の皆様には長年に亘る職務へのご精励と、母校同窓会その他各種団体との交誼に尽力され、東京同窓会の名を広められた功績は真に大きく、新役員一同厚くお礼を申し上げる次第であります。

新役員会には東京同窓会の更なる充実強化を図らねばならない命題が課せられていますので早速ながら過日開催した役員会では、今期取り組むべき優先課題として次の事項について検討に入りました。

１：東京同窓会新規会員・
　　加入増の方策について
２：東京同窓会現会員・
　　大会出席増の方策について
３：定期大会の内容、構成
　（特に第５０回定期大会を記念大会とする企画）

私は広く皆様方のご意見を参考にして、開かれた同窓会の運営を心掛け、年令の垣根を越えて明るく楽しい会を目指してまいります。終わりに、皆様のご健勝を心からお祈り申し上げご挨拶といたします。

副会長　伊藤 勇五（中33）



副会長　斎藤 和男（中33）

副会長　杵渕 政海（高２）

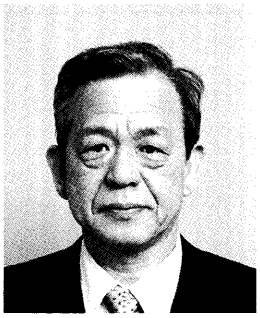
副会長　渡辺 八郎（高３）

副会長　金子 鶴男（高５）

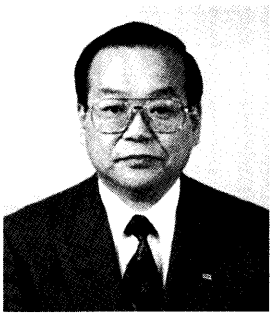
副会長　深見 洋子（高７）

会計監事
佐久間 英輔（高６）

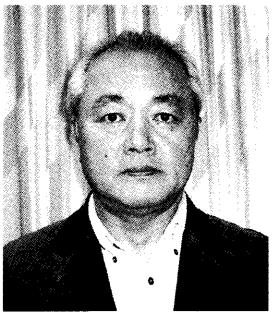
会計監事
安達 繁子（高２０）



総務委員長
沢出 赳允（高６）



財務委員長
塚田　勝（高８）



広報委員長
大橋 貞夫（高１０）

事務局長
石黒 四郎（高９）

松高野球部の諸君！涙と感動をありがとう

新潟県立村松高等学校長　　小島 正芳

明けましておめでとうございます。昨年４月に新発田高等学校より赴任いたしました小島正芳と申します。村松高校発展のため、誠心誠意職務に励みたいと思っております。何卒よろしくお願いいたします。

昨年は、野球部の快進撃により、いい夢を見させていただきました。また、感動も多くもらいました。松城健児の活躍は県内津々浦々に響き渡り、「松高すごいね」が、この地域の挨拶言葉にまでなっていました。東京同窓会の諸先輩には北信越大会出場に際しまして、多額のご寄付を頂戴しました。この場をお借りして、心から御礼を申し上げるとともに、感謝申し上げます。

私も校長として、野球部の応援に出来るだけ参加しましたが、ピンチの時大きな声でピッチャーを激励したり、バッターに声援を送るなど、校長の立場を忘れて応援していたことも多々ありました。そして、不覚にも滂沱の涙を落としたこともありました。それは、甲子園予選県大会の準決勝でのことでした。松高野球部は４１年振りにベスト４に残り、昨年甲子園出場の新潟明訓高校と新発田市の五十公野球場で対戦しました。全校生徒に先生方が一軒一軒電話して下さったお陰もあり、当日全校の約半分弱に当る２００人の生徒が応援に参加してくれました。バス５台を連ね球場に入りましたが、殆どの生徒はこのような晴れ舞台での応援経験がありません。それでも応援団（女子マネージャー）の指示に従い大きな声で、精一杯応援していました。また、多くの松高の卒業生も応援に駆けつけてくださいました。本校生徒の応援は、新潟明訓高校に引けを取らない応援だったと思います。この試合はNHK・NT２１で実況中継されました。新潟明訓高校は予想に反して主戦投手が登板してきました。ここが勝負どころと踏んだのでしょう。松高の主戦投手弦巻君も４連投の疲れも見せず力投しましたが、好機に適時打が出ず、１対３で敗れてしまいました。この試合後の挨拶が終わった後の光景は忘れる事が出来ません。主戦投手の弦巻君が泣き崩れているのを、高坂監督と部員が抱きかかえていました。弦巻君は本気で甲子園に出場しようと思い、人の何倍も努力を重ねて来たのです。まさに、先輩達の伝統を受け継ぐ正真正銘の**「松城健児」**です。本当に悔しかったと思います。

私が滂沱の涙を落としたのは、その翌朝のことです。近くのコンビニエンスストアーに行き、朝日新聞の紙面を開くと、公立高校で唯一準決勝に勝ち進んだ村松高校は、素晴らしいチームであったという賞賛の記事がありました。率直に嬉しかったです。ふと、囲み記事に目をやると、試合後の弦巻君を取材した記事が掲載されていました。「一人で投げ抜き、仲間に感謝」という見出しが付いていました。それによると、弦巻君は我慢の投球が続いている中、汗を拭き拭き帽子の鍔に目をやり、１７人の野球部員と８人のマネージャーから書いてもらった名前を見て戦っていたと云うのです。「一人じゃないことを忘れないように」――そんな思いで投げていたというのです。知りませんでした。こんなにも友情を大切にし、それを支えに真面目に努力している高校生が現代にもいたことを。それも我等が村松高校に――。レジで代金を払いながら、涙が流れて止まりませんでした。

野球部は夢の甲子園にもう一歩のところで出場出来ませんでした。しかし、弦巻君はじめ野球部員・マネージャー達は本当に素晴らしい生徒ばかりでした。そして、この部活動を通じて多くのことを学び、大きな成長を遂げました。村松高校を卒業しても、この時の純粋な気持ちを忘れず、そしてこの時の経験を生かし大学生として、社会人として「飛龍」の如き活躍をしてほしいと心より願っています。

――表紙について――

表紙の写真は、村松在住の斎藤史郎氏（高７回）の提供によるものです。今回で７回目のヒマラヤトレッキングに挑み、１１月１２日、登頂に成功したカラパタール（５５４５m）から撮影したものであります。

写真の高い山がエベレスト（８８４８m）、下方に大きく曲がって見えるのがクーンブ氷河です。

古希を迎えての氏の快挙にはただ脱帽するのみですが、今後とも大活躍されますよう祈念いたします。

この頃は、老若男女を問わず自己中心的で他人への関心は薄く、迷惑行為が目につきます。電車に乗れば聞こえてくる車掌のアナウンス「携帯電話の使用は周りのお客様の迷惑になりますので、あらかじめマナーモードに切り替えて、通話はご遠慮下さい」。

その他、電車内で化粧する若い女性、駅の階段に座り込んで物を散らかし飲食する若い男女、迷惑駐車、迷惑喫煙など迷惑の種はつきません。日本中に蔓延る迷惑行為を見て思う。その人達は己の人間性の低さをひたすら世間に宣伝しているのだと何時、気付くのでしょうか？　　(鈴)

松高東京同窓会・第４９回大会報告

平成１８年6月３日（土）、緑豊な皇居の杜に隣接した「KKR ホテル東京」にて、新潟県立村松高校東京同窓会第４９回大会が会員６７名、母校より校長を迎え、総勢６８名が出席して開催された。

定刻の正午、亀山（高３）・高岡（高１２）両幹事の司会で開会となる。今大会で、２０数年にわたり会長の役を務めて来られた佐伯会長が辞意を表明され、深見副会長より謝意とともに花束が手渡された。

新発田高校から転任の小島校長より、母校野球部が北信越大会に出場するとの報告があり、急遽、応援の募金をして活躍を祈願する。

花束を佐伯氏へ

“いままで有難うございました”

その後、総務・財務・広報各委員長報告を終了後、鈴木多喜男新会長（高４）が選任され第一部を終る。

第二部は、新市合併行事のため遅れてご参加の同窓会本部の相田会長、阿部、浅田両副会長をお迎えして総勢７１名となり、深見幹事の乾杯音頭で懇親会の開始となる。郷里や家庭の話、仕事の話等々お互い一年振りの再会に話の花が咲き、会場は一段と賑やかさを増していく。

やがてフラダンスが始まり、座も一段と華やかに盛り上がる。恒例の会員持ち寄り賞品の抽選会も悲喜交々のうちに進み、校歌・応援歌の熱唱で余韻醒めやらぬまま今大会はお開きとなる。余勢を駆っての二次会も、５０数名の参加を得て大賑わいであった。

新春に際し、会員諸兄姉のご健在を心より祈ってやまぬ。

大会実行委員会　記

東京同窓会・第49回大会収支決算書

平成18年6月3日（土）　於：KKRホテル東京

収入の部				
項目	内訳	人数	金額	合計
①懇親会費		67	8,000	536,000
	男子47名			
	女子20名			
②祝儀		4	10,000	40,000
	同窓会本部			
③会員寄付		2		12,000
	吉田　公男		8,000	
	笠原　静夫		4,000	
合計		73		588,000

支出の部			
項目	内訳	金額	合計
①懇親会費	71名		549,533
②二次会費補填			6,000
③アトラクション謝礼			20,000
④本部対応費			10,290
⑤準備費			87,746
	会議費	13,850	
	切手・はがき	51,500	
	コピー	9,766	
	出席者名簿作成	1,080	
	会報・資料送料	4,250	
	封筒　パック	5,620	
	シール	1,680	
合計			673,569
収支残高			−85,569

財務委員長　塚田　勝　　報告

抽選会に景品寄贈された方々（順不同・敬称略）

佐伯 益一（中２７）	杵渕 政海（高０２）	篠川 恒夫（高０２）	大島惣四郎（高０４）	坂上 卓夫（高０４）
鈴木 健司（高０４）	佐久間英輔（高０６）	高地　彰（高０８）	山崎 輝雄（高０８）	阿部 勇　（高０９）
石黒 四郎（高０９）	大橋 貞夫（高１０）	佐藤　赳（高１１）	金子 健二（高１３）	斎藤 正義（高１８）
佐藤 玲子（女２５）	鈴木 節子（女２５）	向山 律子（高０５）	深見 洋子（高０７）	岡部 ユキ（高０８）
片柳 ムツ（高０８）	山西愈佐子（高０８）	小島 典子（高１０）	真水 道子（高１０）	高岡五百子（高１２）
徳永 道子（高１２）	斎藤智恵子（高１６）	安達 繁子（高２０）		

◎ご協力ありがとうございました。尚、当日は受付混雑のため記載漏れがありましたら、謹んでお詫び申し上げます。

第49回・東京同窓会出席者名簿

平成18年6月3日(土)　於　ＫＫＲホテル東京10F　　新潟県立村松高等学校東京同窓会

来賓(4名)	旧中学校(3名)	高校(59名)		
同窓会 会長	27 佐伯 益一	02 杵渕 政海	07 深見 洋子	10 高岡 雄三
相田 豊 様	32 成海 正弘	02 篠川 恒夫	07 八木 又一郎	10 鶴巻 浩
同窓会 副会長	33 斎藤 和男			10 真水 道子
阿部 律雄 様		03 亀山 知明	08 石本 芳雄	
同窓会 副会長	旧女学校(5名)	03 佐藤 八重	08 岡部 ユキ	12 安部 實
浅田 光雄 様	25 一氏 愛子	03 白石 キヨ	08 片柳 ムツ	12 岩野 忻史
村松高等学校校長	25 近藤 昌子	03 瀬倉 武志	08 小出 博三	12 近藤 洋輝
小島 正芳 様	25 佐藤 治	03 渡辺 八郎	08 鈴木 輝雄	12 高岡 五百子
	25 佐藤 玲子		08 高地 彰	12 徳永 道子
	25 鈴木 節子	04 今井 敬彌	08 塚田 勝	
		04 大島 惣四郎	08 松尾 正春	13 金子 健二
		04 梶屋 庄佑	08 山崎 輝雄	
		04 坂上 卓夫	08 山西 愈佐子	16 小黒 正恒
		04 下野 文幹	08 吉井 清	16 郡司 正大
		04 鈴木 健司		16 斎藤 智恵子
		04 鈴木 多喜男	09 阿部 勇	16 服部 修治
		04 湊 久直	09 石黒 四郎	
			09 間藤 謙一	18 笠原 静夫
		05 金子 鶴男		18 斎藤 正義
		05 雲村 俊慥	10 今井 孝宏	
		05 向山 律子	10 大橋 貞夫	20 安達 繁子
		05 山崎 豊吉	10 小島 典子	20 三宅 紀子
			10 近藤 尚志	
		06 佐久間 英輔	10 新保 優	25 林 信子

小島校長と応援歌の熱唱

～熟女？の艶やかなフラダンス～

名司会の亀山さんと高岡さん

深見さんの乾杯！！

平成１９年度 松高東京同窓会開催のお知らせ

◎日 時　１９年６月１６日（土）・正午開催

◎場 所　KKR ホテル東京

◎住 所　千代田区大手町１－４－１

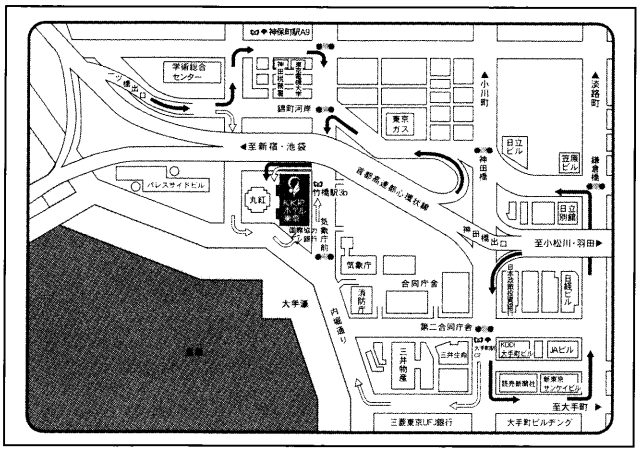
TEL０３－３２８７－２９２１

交通　●地下鉄東西線竹橋駅下車

（大手町駅寄改札から専用3b出口直結）

●地下鉄千代田線大手町駅C2出口より５分

●都営地下鉄神保町駅A9出口より５分



２年振りの同期会

亀山　知明（高３回）

前夜から振り出した雨が残っている東京を５月１１日早朝、新幹線で新潟へ向った。目的地新潟の新津駅には、東京同窓会の縁で当日ゴルフを一緒に楽しむことになっていた村松在住の間藤さんが車で迎えに来てくれていた。ご当地新津も雨が少し残っていたが折角だからと、予定通り月岡の「フォレスト ゴルフクラブ」にチェックイン。雨支度もそこそこにアウトコースをスタート。２ホールを終えたら雨もあがり、薄日も出てくるなど昼食後のインコースはゆっくりゴルフを楽しむことが出来た。

間藤さんには、翌日の同期会の会場でもある五泉市内の「ガーデンホテル マリエール」まで送って戴きすっかりお世話になった。

その夜は、市内の寿司屋で地酒「菅名岳」などで一杯やりながら、久し振りの大湊君との再会で話も弾み楽しい思い出の一日となった。

翌日は早めに起き、幹事さんからも案内のあった五泉の名所の一つ「牡丹百種展示園」に向った。ホテルの直ぐ裏手２～３分のところにあり、見事に咲き誇っていた。

見事なボタンの花

村松桜と名付けられたボタン

全国的に有名なチューリップは４月末に開花し、続いて５月始めに開花期を迎える百数十品種、五千種類の牡丹は、昨今、全国的に知られるようになってきたそうだ。（我が家にも一株を記念に買ってきて庭に植えてある）。その最も良い時期、それも近くのホテルに同期会の場所を設定した五泉の幹事さんには感謝々々！！

五泉も「泉の郷」から「花のまち」へと開花したようで、これも、水清らかな処に見事な「花」‥‥また、美味の地酒も？　江戸末期の文人、鈴木牧之の書いた「北越雪譜」でも蒲原郡（かんばらごおり）の「五泉の水」を紹介していたのを思い出した。

さて、懇親会も予定通り１３時から幹事長の大湊君の司会・進行で始まった。一見すると、みんな素適に歳をとり、どこか面影を残している面々、遠くは京都在住者の参加もあり（東京かんろく会から１４名）その数５７名。また、恩師も毎回出席の酒井準一先生に加え、今回は音楽担当であった山賀先生も初めて出席されるなど総勢６０名の盛会となった。恒例の当番幹事となっている五泉地区代表幹事、河辺君からの歓迎の挨拶、両先生からのご挨拶に続き、今年は「新生五泉市」発足の年ということで特別に参加している五十嵐市長さんからも新五泉市のご紹介と、地域振興への力強い取組みと抱負が述べられ、理解と協力の要請があった。

乾杯から宴に入り、その情景や交わされている話題などを紹介する。「いま何やっているの？」と聞かれ、卒業後の忙しい社会生活の中では果せなかった夢を追っているような趣味など、ロマンのある話題を生き生きと語る人、未だに加齢にまけるかとマスターズに挑戦するなど健康づくりに励んでいる人、旅に出かけて歴史、風景を探訪して来た時の話をしている人、またユックリと絵を画いたり、カメラに凝って写真の個展を開いたりしている人など、ゆったりとした毎日を過している状景が窺えるような話が多く、流石に若い時と違い、７０歳も過ぎると、ひたすら頑張ってセレブにと云うような話や、故郷の思い出も、昔の話や人の噂話を繰り返すような反面教師になるような寂しい場面はなかった。舟木一夫の「高校三年生」の大ヒットを複雑な思いで聞いた我々世代だけに、ニューエルダーに相応しく、自分の時間を精一杯自分の為に好きなことをして毎日をゆっくりと楽しく過しているような「一人称」での話題が殆どであった。

一方、「お爺ちゃん・お婆ちゃん」のパターンにはまって暮らしているうちに柔和な好々爺の顔となり、話題が少なく会話の拡がらない人もいた。趣味などを持ち、若い人達とつき合ったり、新しい友人を広げていくなどすると、感性も考え方もナイーヴになるのではと感じる場面もあった。

いずれにしても、今の自分を生き生きと語り、相手と共に楽しく語り合えるような自分でありたいと、常々思っている私にとって、今回の同期会は「心のサプリ」となった楽しいひと時であった。会は予定通り１５時、「２年後にまた会おう」と約して散会となった。

『‥‥‥七十にして、心の欲する所に従えども矩を踰えず』の毎日がベターなのでは！！

村松中学・高校 同期会　　平成１８年５月１２日　於 ガーデンホテルマリエール

村松中学３４回生 村松高校　２回生　同期会

杵渕　政海（高２回）

天高く快晴に恵まれた平成１８年１０月１５日(日)～１６日（月）と、新発田市月岡温泉ホテル「泉慶」にて２年振りに同期会が開かれた。

今回は新潟の幹事のお世話により大変賑やかに楽しい会となった。ホテルの女将曰く「７５才の方が４０人近くも集まるとは、真に目出度いことですヨ」とお褒めにあずかり、気を良くして旧交を温める。次第に加令して来るが、健康を第一に、前向きに過して行こうと誓い合い、次の再会を約束して散会となった。

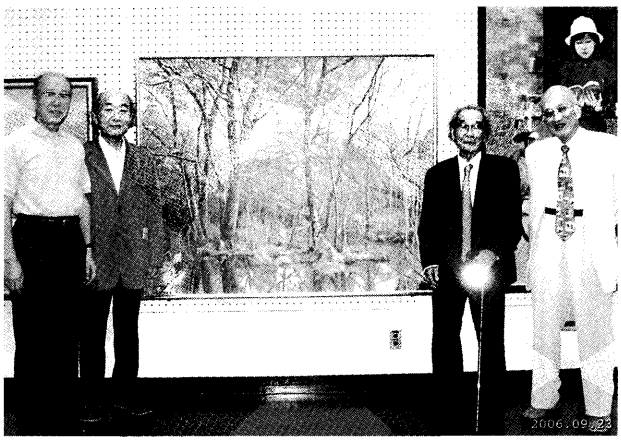
新潟の奥座敷　月岡温泉　泉慶　にて　平成18年10月15日

松高２回生石川雄二君 一水会連続受賞

杵渕　政海（高２回）

我々の同期である石川雄二君の油絵の才能については、ご存知の方も多いと思いますが、平成１８年秋の一水会展で佳作賞を受賞し４年連続の受賞となり、いよいよ一水会会員に推挙されます。

前回の個展でも好評を博しましたが、今回の作品は数段と洗練され、爽やかな緑の色と詩情あふれる自然の美しさを感動的に表現した品位ある作品と評価されました。



一水会展にて　　於 上野東京都美術館　平成１８年９月２３日

高校４回卒の同期会

加藤　清治（高４回）

平成１８年１０月１０日（火）月岡温泉「ホテル泉慶」にて松高４回生の同期会が開催された。新潟駅と村松さくらんど会館までホテルのバスが迎えに来てくれ、午後４時頃までに集合。当日の参加者は男女合わせて４７名だったが、会を重ねる度に少しづつ出席者が減っていくのは、真に寂しい限りである。

定刻の午後６時から始まった会は、記念撮影・物故者への黙祷・健勝祈念の乾杯‥‥と何のハプニングも無く予定通り定番路線を驀進する。

酒が入るにつれ、オッサンの脳は次第に活性化し、時間が逆流して５５年前にタイムスリップして行く。酒を酌み交し、いっとき過ぎれば気分はまさに青春真っ盛り、青春バンザイ！！！ボカーシアワセだなー！！の心‥‥かくて“月岡の夜は更けて”いくのであった。

明けて１１日、オプショナルツアーのバスに乗り込み、明治初期より続く「保田庵地焼窯元（やすだあんぢやきかまもと）」を訪れひとしきり見学する。やがて、次の目的地に向って出発。晴天の越後平野を走り「豪農の館」に到着する。

この館は、明治１５年から８年を掛けて建造されたもので、長い間、伊藤家の本邸宅として使用されてきた豪邸である。敷地８，８００坪、建坪１，２００坪と言われるこの邸宅はまさに「豪農の館」と呼ぶにふさわしく、平成１２年には国の文化財として登録されている。

この館の１００畳敷き大広間から眺める回遊式日本庭園も見事で、庭師の田中泰阿弥（たなかたいあみ）が全国から集めた名石を配し、５年の歳月を費やして築き上げたものである。

伊藤家は江戸中期、ここ越後沢海の地で農業から身を起し、代を重ねて昭和の最盛期には農地１，３７０町歩、作徳米３万俵と言われる豪農となった。

しかし、戦後の時代は大きく変り、農地解放令により殆どの土地は農民の手に渡った。豪壮な邸宅は昭和２１年に設立された「財団法人 北方文化博物館」によって管理、運営されている。

村松高校４回生同期会
於　月岡温泉　白玉の湯　泉慶　平成１８年１０月１０日

村松高校野球部の健闘を称える

野球部ＯＢ　沢出　赳允（高６）

第88回全国高校野球選手権・新潟県大会で村松高校野球部が41年ぶりに準決勝へ進出した。

５月に開かれた北信越高校野球県大会で日本文理高に敗れたが30年ぶりに準優勝を果した。（北信越大会は一回戦で福井商に敗退）その結果、夏の全国高校野球新潟県大会ではシード校に選ばれた。

シード４校は順当に勝ち進んだ。村松高は村上高、巻高、新潟産大付高、柏崎常盤高を退け、準決勝で新潟明訓高と対戦１：３で敗れ甲子園まであと二勝の壁が厚かった。

久しぶりに県下に「村松高健在なり」と強烈にアピールした功績は大なるものがあった。

炎天下の中、シード校のプレッシャーを撥ね退け、日頃の練習の成果を十分に発揮された監督、選手、マネージャー等関係者各位に心から敬意を表します。

第88回高校野球・新潟県大会戦績表

月　日	対　戦	戦　績
7／20	2回戦	村松 8：3 村上
23	3回戦	村松 10：3 巻
25	4回戦	村松 6：1 新潟産大付
26	準々決勝	村松 7：4 柏崎常盤
29	準決勝	村松 1：3 新潟明訓

（回想）

我々が三年生の1953年夏…第35回全国高校野球選手権新潟県大会準決勝で昨年と同じ新潟明訓高と対戦した。村松高が１：０で勝ち、決勝で新潟南高を２：０で退け二試合連続完封、夏の新潟県大会で初優勝を果した。

平成18年８月３日付の新潟日報に「文武両道の村松高の健闘光る」と｛私も一言｝の欄に掲載された。（下記）紙面に記述されているように「文武両道の精神を堅持している」と村松高を評価して下さる人達がおられることは本当に有難いことである。

陸上競技部はじめ各部の活躍が華々しい時代を懐かしみ「松高の栄光よ再び」を願って母校関係者のみならず応援して下さる多くのフアンがおられることを肝に銘じ、母校の栄誉と郷土のため、そして自分自身の青春に悔いを残さぬよう目標に向かって努力邁進されるよう期待しております。

私も一言

文武両道　村松高の健闘光る

第88回全国高校野球選手権新潟大会は、決勝で日本文理が新潟明訓を敗り、参加九十七校の頂点に立った。夏の優勝は二年ぶり四回目。甲子園球場での活躍が楽しみだ。

そんな中にあって、準決勝まで駒を進めた村松高が燦然と光って見えた。惜しくも新潟明訓に力尽きて敗れたが、ベスト４の中の異色校である。

村松高は公立である。私立校は優秀な選手を勧誘して、野球チームを編成、野球の英才教育で実力強化が目的の部活である。

私立校との環境の違いは一目瞭然、格差は甚だしいが、それを乗り越えての快挙である。地元の霊峰、白山（一〇二二㍍）に登ったと同じ清涼感を味わせてもらった。村松高は有名私立校に流出してしまい、部員の数も少ない。

そんな恵まれない野球部が、文武両道の精神を堅持し、苦しい練習にへこたれることなく、見事四十一年ぶりのベスト４に進出したことは絶賛に値する。

（新潟市・中村義紀・会社役員・67歳）

平成18年８月３日　「新潟日報」より

第１７回「松五会」（松高５回生の集い）

金子　鶴男（高５）

今回の松五会は、平成１８年１０月１５日（日）～１６日（月）の両日、ふるさと新潟は長岡の蓬平温泉郷名湯の宿に於いて開催された。渓流と静寂に包まれた自然は、近隣の山々が秋を謳歌するように色葉の羽衣を纏い、その景観に見惚れるばかりでありました。

総勢２６名の参加を得て会は始まり、地元の銘酒を飲むにつれて次第に盛り上がりを見せ、肩を組みながらの校歌・応援歌の熱唱は、いつしか皆を青春時代に戻して行きました。そして二次会、三次会と夜が明けるまで想い出話に耽り、話題も尽きることなく続きました。

次の日は、観光バスを利用して長岡城主墓所、郷土資料館、村松藩堀直寄の蔵王堂城址、連合艦隊司令長官山本五十六記念館・旧宅‥‥それぞれ見学し、名残を惜しみながら次の再会を約し、長岡駅にて解散しました。

★ 村松藩の初代藩主・直時の父である直寄公は大阪夏、冬の陣で功績が認められ蔵王堂城主として越後に入り長岡の城下町をつくる。その後、村上十万石の城主となった。

第１７回松五会　　於：蓬平温泉・蓬莱館福引屋

飛騨高山でのクラス会

新保　優（高１０回）

２００６年６月、飛騨高山で５組恒例のクラス会が開催された。本来ならこの会は、昨年開かれる予定だったのだが、直前に幹事が倒れて入院する事態となり、取り止めになったいきさつがある。

今回も皆が心配し，開催を危ぶむ声も多かったが、幹事の目覚しい回復と頑張りで決行された。小生も本当に大丈夫かと幹事に問い合わせた一人であるが、この手の話にはうんざりしていたと見え、“大丈夫でなきゃ幹事など引き受けない！”と少し機嫌をそこねていた。

時々雨の落ちる曇り空の中を新穂高温泉に集合し、新潟地区のメンバーなどと久しぶりに顔を合わせた。今回は幹事夫妻を含めて１３名の出席であり、例年になく少なかった。聞けば自分や廻りの人が病気や事故で欠席した人が多く、いつも出席されていた権瓶先生も、高齢と病気で来られなくなった。

このような状況もあって、病気と加齢という、あまり意気が上がらない話題での宴会になってしまった。しかも板戸を隔てた隣では、いち早くカラオケで盛り上がっていて、ますますこちらの気勢が削がれた上に、ロクに話も聞こえなくなってしまった。

翌日は平湯温泉を経て高山まで貸切バスで行った。山をくりぬいて、立派な道路ができていたが、山を越えた高山側では深い霧が立ち込めていた。こぼれ落ちそうなほど多量の葉を付けた大枝や樹冠が、流れる霧の間におぼろに見えて、本当の山奥に来ているのが実感された。

１時間半ほどで高山に着いた。心配された雨にも降られず，日が射してきて暑かった。

飛騨の里には、いろいろな種類の古い家が移設されている。５階まである合掌作りの実物を、初めて目にすることができた。黒光りした太い柱や骨組みに、年月に耐えた重みと誇りがあるように感じられた。

各種の民家では、子供の頃にその中で生活し、見なれていた萱葺き屋根や土間、様々な家具や道具などが、今では珍しいものとして、説明付きで展示されていた。懐かしさと共に、自分の齢が実感された。

祭りの森では、本物と同じ作りの屋台が数多く展示されていた。祭りを再現するように、屋台には明かりがともされ、からくりの実演も頻繁に行われていた。

細工にこり、華麗に色づけされた、工芸技術の極致とも言える屋台であるが、あまり立派すぎて、かえってごてごてした印象を受け、からくり人形などには、ついあら捜しの目を向けたくなった。この偏屈な感情も加齢のためか。

古い町並みを復元した町屋の通りは思いのほか長く，景観に合わせて作られた店では、ちょっと気をそそられる工芸品や食べ物などが売られていた。

飛騨高山の古い家並み

それぞれが好みの店で足を止めるのでばらばらになったり集まったりを繰り返しながら、私達は人混みの中を散策した。最後には皆がそろい暑さに疲れながらマークしていたコーヒー店を探したが，迷って結局見つからず、他の店で休むことになった。

そして疲れと満足と、これで終わったという感慨を感じながら解散し、帰途についた。

１０回生・５組の面々

碧空の
駒子の郷の
ゲレンデに
竹馬の友がき
雪とたわむる

浩

６７才の雪遊び　湯沢・布場スキー場にて　2006年２月

ヒマラヤトレッキング

（三ピーク登頂を目指して）

斎藤　史郎（高７回）

私にとって７回目のヒマラヤトレッキングになる。今回は全国からヒマラヤ大好き人間が８名集まった。

１０月２９日、カトマンズゥの空港を１７人乗りの小型飛行機でルクラへ飛ぶ。ここはヒマラヤの尾根の上に開けた村で、クーンブヒマール（エベレストを中心とする山域）の玄関口に当る村である。私達をサポートしてくれるシェルパやコック達とここで落ち合い、これから２２日間のトレッキングの開始である。

ルクラからドウドウコシ（渓谷）に沿って歩き始める。ビスタリ、ビスタリ（ゆっくりゆっくり）２日間歩いてシェルパの里ナムチェバザールへ。高度順応のため１日滞在する。更に高度を上げ、モン峠へ。ここから正面に見えるアマダブラム(6814 m)はヒマラヤの名峰と言われ優美な姿をしている。ポルツェトゥンガ、ドーレ(4100 m)へ。ここまで来ると森林限界。氷と岩と草の世界である。風も冷たく肌を刺すように感じられる。

ナムチェでは右手に見てきたタムセルク（6841 m）やカンティガ(6783 m)は遥か後方になる。ルクラを出発して７日目（１１月４日）マッツェルモに到着する。４４７０mのこの地点は広々としたヤクのカルカ（放牧地）が広がり目の前に鋭く尖った岩峰のキャジョリ(6186 m)が天を突くように立っている。ドウドウコシを挟んで東側にはタウツェ(6542 m)、チョラツェ(6440 m)が堂々とした姿でそそり立っている。

１１月５日、ゴーキョまで歩を進める。チョオユ(8153 m)から流れ出すゴジュンバ氷河のモレーンに出来たこの地は所々にミルクを流したような水を湛えた氷河湖が点在する。５０００m近いこの地点では酸素は平地の半分以下、呼吸が苦しい。気温も朝は氷点下１０℃を指す。

後方、ゴジュンバ氷河　左、チョラツェ　右、タウツェ　ゴーキョにて

１１月６日、ゴーキョピーク(5360 m)登頂を目指す。２度目の挑戦であるが呼吸が苦しい。６００m程の高度差を２時間１５分かけて登りきる。素晴らしい眺めだ。正面（北）から東にかけてチョオユ（8153 m）、カンチュン(6063 m)、エベレスト(8848 m)、ヌプツェ(7864 m)、ローツェ(8516 m)、遠くにマカルー(8463 m)、そして近くにチョラツェ(6440 m)、タウツェ(6542 m)が。ヒマラヤの名峰が見渡せる。素晴らしい眺めに、ここまで登ってきた苦しみが吹っ飛んでしまう。

登ってきた道をポルツェトゥンガまで戻る。ここから二つ目のピーク、カラパタール(5545 m)を目指して歩を進める。タウツェ、チョラツェを巻くようにドウドウコシの支流イムジャコーラ（渓谷）の左岸をトゥクラ(4600 m)まで進む。更にその奥、ロブチェ(4910 m)には１１月１１日に到着する。さすがに寒い。そして、少しでも動き回ると呼吸が苦しい。寒さ対策を考えてテントの寝袋にもぐり込む。

１１月１２日、気温氷点下１０℃。早朝４時、ヘッドランプで足元を照らし、カラパタールへと向う。５時半にゴラクシェプで軽い朝食をとり、カラパタール登頂に挑む。２度目の登頂である。希薄な酸素に苦しめられながら重い足を進める。４年前の登頂の時、目の前のヌプツェ中腹で起こった猛烈な雪崩を思い出す。９時２０分、カラパタール(5545 m)登頂。無事の登頂を喜び、サポートしてくれたシェルパ達と思わずがっちりと握手する。

後方、チャンツェ　下方、クーンブ氷河　カラパタールにて

ここからの眺めも最高だ。正面（北）目の前にプモリ(7138 m)、カラパタールはプモリから延びた尾根上にあるピークなのだ。東に目を移すとリンチンン(6713 m)、クンブツェ(6639 m)、チャンツェ(7864 m 中国領)、エベレスト(8848 m、ネパール名サガルマータ)、天を突くように鋭いピークのヌプツェ(7864 m)、ローツェ(8516 m)、アマダブラム(6814 m)は遥か後方に。いつまで眺めていても見飽きない壮大な眺望だ。高所での長居は高山病のもと。４０分ほど写真、スケッチ等を楽しみ下山する。今夜の宿泊地ロブチェに午後２時４０分到着。くたくたに疲れ、３時半のお茶の時間には疲れて居眠りをする者も出る。

１１月１３日、次のチュクンピークに向けて行動を開始する。まずデインポチェまで下がる。ここはヌプツェ、ローツェ、アマダブラム、タムセルク、カンティガとい

った7～8000m峰に囲まれた素晴らしい眺めの地点で、それ等の峰々が夕日に映えて真紅にもえる。この眺めは何と言ったらいいのか、感動のひとことである。

11月14日8時、準備を整えチュクンに向けて出発する。イムジャコーラに沿った緩い登りであるが、氷河のガレ場が続き歩き難い。正面左手にヌプツェ、ローツェを見ながら歩く。間もなくヒマラヤで最も美しいヒマラヤひだのある無名峰（一般に6000m以下の山には名前が付けてない）が見えてくる。10時半過ぎにはチュクンに着く。昨夜の寒さによる寝不足なのか、それとも、これまでの疲労が溜まっているのか疲れがひどい。昼食までテントで横になると眠気がさしてくる。

11月15日、いよいよ三つ目のピーク、チュクンピーク(5400 m)登頂の日である。6時に出発、最初の急坂をジグザグに登ると広々とした草地に出る。正面にヌプツェ、右手にローツェ、その手前に目指すチュクンピークが見えるが、酸素不足の苦しさから思うように足が進まない。一緒に登頂を目指したKさんが、高山病にかかったのか登頂を断念しチュクンへ降りる。9時10分、チュクンピーク登頂。ここは初めての登頂だけに眺めは最高。予想以上の素晴らしさだ。正面（北）眼前にヌプツェの大岩壁。見ている我々に覆い被さるような迫力だ。右手にローツェが、マカルー(8463 m)も近くに見える。プモリもアマダブラムも見える。眼下に遠くタンポチェが、更にその先にナムチェの近くに聳えるコンデリまでも見渡せる。夢中になって写真を撮ったりスケッチをしたり。1時間余り山頂に留まり10時半に下山を開始。途中チュクンで昼食をとり、一気にデインポチェまで下る。午後2時半過ぎに着いた時は、三ピーク登頂に成功したという安心感と長いトレッキングの疲労感から疲れがどっと出る。

夕食にはヤクの肉のステーキが出る。二人前食べ腹一杯になる。この頃になると、後何日でカトマンズゥに帰れるのか、布団の中で脚を伸ばして寝たいなあ…などと考えるようになる。

目的を果し、後は登って来た道を下るだけ。タンポチェ、ナムチェバザール、パクディン、ルクラと4日かけて11月19日、トレッキングの出発地点ルクラに戻る。22日間の長い山旅も無事終わる。今夜は私達をサポートしてくれたシェルパ、コック、ポータ達とのお別れの会を開く。地酒のチャン（どぶろく）やロキシ（焼酎）を飲み交わし歌い踊る。こんな時必ず歌われるのがネパールの国民的な歌「レッサンピリリー」である。阿波踊りのような手振りで「レッサンピリリー、レッサンピリリー、ウデラジャンキララマバッサン、レッサンピリリー‥‥」と楽しい夜を過す。

母校同窓会総会

平成18年8月20日（日）午後4時、母校の同窓会総会が村松学校町の割烹「松の家」に於いて開催され、執行部のご努力により、総勢102名と云う驚異的人数の参加を得た。東京同窓会からも、鈴木新会長を筆頭に深見、石黒、間藤、大橋の5名が参加した。

参加者の内訳で、20回～33回生が41名にも上ったと云う事は、同窓会本部の若返りと共に、将来の活動も安心して行えると云うことである。相田会長や役員の方々はじめ参加した同窓会会員までが、生き生きと総会に臨まれている様子は明るく嬉しい限りであった。

総会風景

今年の議案で大きく変った事は、従来の「活性化資金」を廃止して新たに「同窓会費」を徴収し、その予算規模を10倍の100万円にしたことである。徴収方法は種々あるが、いづれにしても同窓会会員の格別の協力が望まれるところであろう。体育祭・文化祭・部活動等を援助する「活動補助費」は前年の4倍近い予算を組み、母校の活躍を強力に後押ししているのも頼もしい。

小島校長より村松高等学校の近況について報告があり、高坂監督も北信越大会・夏の大会の報告とお礼や野球部の現状を説明された。今年のような熱気に満ち溢れた総会の開催を、来年以降も期待しまた確信するものである。

懇親会は同期生が20名を超える学年もあり、あちこちに同期の輪ができて笑顔が溢れていた。途中、OBによるブラスバンド演奏があり、最期も、ブラスバンドに合わせて校歌・応援歌の熱唱が続き、大盛り上がりの内にお開きとなった。

OBによるブラスバンド演奏

校歌・応援歌の熱唱

ふるさとは今

渡辺　八郎（高３）

「歴史的な建物と出来たての建物では、足を踏み入れた時の感じが全く違う。人が歩いて来た場所には、何かが残っている」と、ある作家が言っていた。「街」は根こそぎ変えていくが「町」は余韻を引き摺りながら変っていく。「ふるさとの町」の匂いは何時までも続いて欲しい。

昨年の１月１日に旧五泉市と旧村松町が合併をしたが、冠に五泉の名称が付くのが耐えられないと、村松町では反対する人が多かったと聞く。過日、新市誕生と共に「五泉応援団」への協力について、旧村松町の商工課の課長とお会いする機会を得た。その時に『村松三万石・城下町めぐり・ガイドマップ』なる一葉の地図を頂戴した。私も６年間村松へ通った（細い溝板の小路から遊廓跡、神社仏閣、旧兵舎跡等、旧町名まで大体は知っていると思っていた）が、ほんの一部分を歩いたに過ぎなかった。改めて村松の歴史の重さを認識したのである。古くは城下町であり、終戦までは軍隊が駐屯していた。そして、旧制中学・女学校が存在した町の匂いを『ガイドマップ』は隈なく紹介していた。

方や旧五泉市の『ガイドマップ』はニット、農産物、チューリップ、牡丹など、産業を中心に紹介している。毛色の変った町が一緒になって歩調を合わせるのは難しいのではと地元の一部は言う。土地の人の単なる偏見にも思えるが、我々東京同窓会の諸氏には全く違和感は無い。同じ屋根の下をくぐって来た仲間意識の所為か。

昨年、我が村松高校が束の間の眠りから覚め新聞を賑わしてくれた。「公立高校ただ一校、準決勝に残る！」。創立以来『文武両道』を校訓として幾星霜、「武」の臥龍がやや長い眠りからやっと欠伸をして目覚めた様である。伝統ある「文」と共に名誉を挽回してもらいたい。

最近一歩先んじた感のある五泉高校も、なかなか進取の意気に燃えている様である。五泉高校の前身は旧五泉町立の三年制実業学校であり、町の商工業者と近郷の農家が後継者育成の為につくった学校であった。方や旧村松中学校は学究の徒を育成する県下でも有数の学校であった。甲・乙種中等学校の差別はあったが、それぞれの町に適した？中等学校の存在であったかと思う。やがて五泉高校も県立高校の資格を得、大いに奮起してきた。真に結構なことである。同じ市の中でお互いに切磋琢磨競い合って、郷土の発展に寄与して貰いたいものである。

都市では隣近所の無関心が広がっている。地方でも人々の関係が希薄になっている。こんなご時世に、地方と首都圏の交流を図る「五泉応援団」が存在している。単なる郷愁だけでなく、相互の交流を深め情報交換の機会を提供してくれている。我々首都圏に在住している旧南部郷の出身者にも大いに関心を持ってもらいたい。

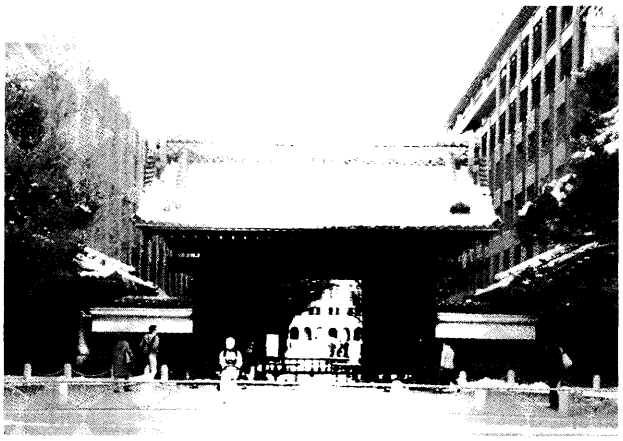
「フアッションと清流のまち・五泉市」と歴史と桜の城下町・村松町」の合併が、郷土をますます発展させていくことを希って止まない。

第８回五泉応援団総会　　平成１８年１１月１１日
於　ホテル グランドパレス

東京の大雪？

大橋　貞夫（高１０）

平成１８年１月２１日朝から降り始めた雪は夜まで降り続き、東京都心では９㌢の積雪があった。水戸市では最大積雪が１７㌢を記録し、さいたま市も１３㌢の積雪となった。その他、横浜市１１㌢、千葉市１０㌢など。翌朝の新聞では慣れない積雪に、足をとられて転倒して怪我をする人や、スリップ事故が相次ぎ、怪我人は関東１都６県で約２７０人に上ったと報じている。２１日は大学入試センター試験の初日にあたり、遅刻を心配した受験生も多かったようである。



東大赤門の雪景色　　１月２３日・撮影　鶴巻 浩氏（高１０）

この原稿は昨年の１１月に書いたものであるから、今年の冬は降雪があるかどうかなど分かる筈もない。予想では暖冬になると言われている。近藤洋輝氏（高１２）が会報４１号に寄稿された「気候変動について」を読むと、確かに２０世紀以降の地球温暖化は進行している。動植物の北限が次第に北へ変動してきて、沖縄の蝶が北海道あたりで稀に見掛けられると言う。

続・佐渡紀行

真水　道子（高１０回）

「そうだ、佐渡に行こう」の掛け声で１０期生有志が６月１０日、再び佐渡を２泊３日で旅することになった。前回は１０月下旬、山々が紅葉に色づいた頃の旅だったので、新緑と初夏の花咲く島へと計画することにした。

早速、両津港よりレンタカーに乗り、大佐渡から小佐渡の日本海側を走ることにした。幸いキャンペーン中とかでレンタカーは格安で乗り放題だった。

まずはドンデン山に到着、梅雨期にもかかわらず好天に恵まれ、眼下に広がる両津の町並みと青い海が美しい。少し冷たい風の中、周りにはレンゲツツジが色美しく花をつけ、ノリウツギの花が満開だった。

その後、新緑の大佐渡スカイラインを経て相川へ。途中の高原ではカンゾウの花が今にも開きそうな様子であった。ホテルに入るには少々時間が早かったので、伝承館にて再び無名異焼に挑戦する。今回は２回目とあって手捌きも慣れたもの、良い作品の出来ばえに喜びも倍増。

やがて夕日の沈む頃に、宿に到着。夕食をとりながら海上には絵葉書さながらの美しい光景が…。

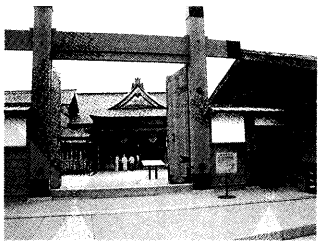
♪♪霞む相川　夕日に染めて
浪のあや織る　春日崎…

２日目は、カンゾウで山が黄色に染まると詩われている大佐渡の大野亀に。丁度、カンゾウ祭りの最中で観光客や地元の人達で賑わっていた。祭りも最高潮、佐渡ならではの伝統芸能の演目で、祭りには欠かせない鬼太鼓、佐渡民謡など保存会が変わると出し物にも味があり、いい時期に来たと喜ぶ。

鬼太鼓

今年のカンゾウは、色も濃く大輪で満開、今までにない見応えだ。外海府を経て相川に至る海岸線には、これまた一斉に咲く岩ユリが群生している。思わず車を止めて撮影会となる。

午後は、再び史跡の町相川へ戻り、佐渡奉行所跡へ寄って、改めて説明を聞く。

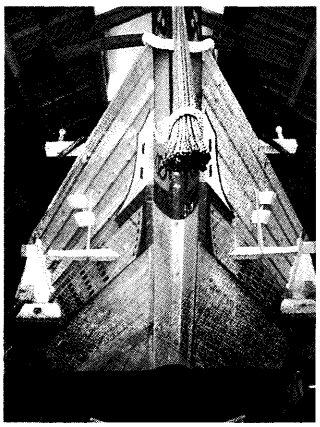


復元した佐渡奉行所

総工費２０億円以上の資金を使い当時の奉行所の再現と、隣には金・銀山の鉱石が小判になる迄の工程を再現した展示館を見学。鏈（くさり）（鉱石）の石（いし）扣（はた）きから始り最後の板取りまで金の無駄の無い徹底した採取法には感嘆を覚える。坑道の全延長は約４００km、相川から東京までの距離とも言われ、これは江戸時代に金を江戸城まで運んだ「金の道」のりでもある。

３日目は、夏を思わせる様な雲一つ無い好天で、最後の目的地である小木方面へ車を走らせる。

途中、穏やかな美しい真野湾と緑と花に囲まれた美しい町、小京都といわれる真野を通る。ここは順徳天皇や日蓮が流されて住んだ町でもある。佐渡を旅して常に感じることだが、お墓がやたらと目につく。相川には鉱山関係の無宿人の墓はいうまでもないが、道路の沿線、山の上、田んぼの中等々、そしていつも新鮮な花が供えてある。やがて小木を経て、船大工の里、宿根木に着く。先ずは、千石船展示館へ。廻船業で栄えた往時を偲ぶ北前型帆船の復元の白山丸を見る。夏祭りに、戸外で立派な帆を揚げる雄大な姿を一度は拝見したいものだ。



千石船・白山丸

江戸時代に繁栄した集落形態が息づく宿根木の町並みには人影もなく、静かでひっそりとしている。家並みを見学して路地から路地へと移動するのも気が引ける。また土地が狭いため船大工の技術を生かした三角家（船形の家）など、今も大切に保存されている。奥の念仏橋を渡ると、ここでも古い墓に美しい花々が供えてあり、佐渡の人々の温かい心に触れて感動。

宿根木の三角家

午後、帰路である両津港に向う途中、時間に余裕がありトキの森公園で一息入れ、１６時１０分発のフェリーにて佐渡に別れを告げる。

♪♪　山で黄金の花咲く　佐渡は
これぞ　日本の宝島…

伊豆の与太郎日記　チンチン爆発の巻

堀　直昭（高８回）

四月二十一日［金］晴.　頻繁なトイレとの往復で一日が終わる。膀胱は満タンなのに小便が出ない。末期的症状である。

思えば一年前、尿道の激痛と出血があり、小便の出が急に悪くなった。驚いたオレは大嫌いな病院に駆け込み救いを求めたが、突然オカマを掘られ、処女を失った乙女のように嘆き悲しんだのである。医者は「前立腺肥大ではないかなぁ」などといかにも曖昧な診断である。

尿路結石に悩んでいたオレは「石が下りてきて、尿道に詰まっているんじゃないでせうか？」と訴えたが、医者は相手にしてくれない。

出血と激痛は抗生物質で治まったが、以後も小便が少量ずつしか出ない日々が一年も続く。

病院を転々とした。三件目の医者は泌尿器科の権威ということだったが、初診のときは患者の顔も見ないし、話も聞いてくれない。レントゲンや超音波、様々な検査を受けたが「小便が出なくなる病気は四十種類もあるからねぇ。いちいち調べるのは大変だ」と言い、「前立腺も腎臓も膀胱も異常なし。尿路結石も見当たらない。石は多分排出されたのでせう」ということで釈放されたが症状は改善されぬままだから釈然としない。

病院の薬の他に、大枚をはたいてハルンケアや漢方薬なども服用するが改善の兆し無し。最近は特に変だ。十日程前からペニスは半ひねり横向きに変形し悪相を呈している。膀胱が破裂しそうな激しい尿意だが、シビンで計量すると十五分も唸って四十ＣＣしか出ない。一日のトータルが四百ＣＣ。おまけに水滴はいつまでも漏れ続ける。仕方ないから、ライフリーの“薄型軽量パンツ”を買ってきて装着する。これはあくまでも“パンツ”であってオムツではない。馬鹿にするな！

四月二十二日〔土〕晴.　ウンウンと唸りながら僅かばかりの水滴を搾り出し、残尿感はしっかり残るが諦めてベッドに戻ってくる。しかし、たちまち激しい尿意を催しトイレに駆け戻る。一日の大半をトイレで過ごす。

もうオレは駄目なのか、まぁ、長いこと生きてきたのだから、この辺で幕を引くのも仕方ないか。それにしてもションベンの毒で命を落とすなんざぁ、いかにもミットモナイ。せめて心臓麻痺とか脳梗塞など、位の高い立派な病気があるではないか、と心は千々に乱れる。

最近開発した排尿姿勢、トイレ前面の壁に手を突いて前傾四十五度、下腹部に渾身の力をこめて息張る。

すると、出たのです。バシャーという物凄い音がして一年ぶりにバケツの底が突然抜けたような小便が・・・。そのときカチンと音がしてトイレの床に黒い物体が転がったのです。一瞬何事が起こったか判らず、チンチンが爆発したのかとおもった。

状況が飲み込めて、いやぁ、嬉しかったねぇ。真っ黒い石を拾い上げ、水洗いしてメジャーで計ったら直径が一センチあった。全体の型は三角形でギザギザだらけの不気味な物体、いかにもグロテスクな石である。

こいつが一年ものあいだオレを苦しめてきた元凶だったのか。だが、良くぞ飛び出して来てくれた。有り難うと感謝したい気持ちにもなる。オレにはダイヤモンドのように輝いて見えましたねぇ。

長い間オレを苦しめ、金を搾り取ってきた藪医者どもには改めて腹が立つ。金返せッ、竹島を返せッ、尖閣諸島を返せッ！

長い道のりだったが、とにかくオレは生き地獄から生還することが出来て、心底ホットしたのである。嬉しさのあまりカミさんの宝石箱に石を大切に収納した。

佳子さんや和貴子さんに事の次第を報告「どうぞ、手にとってジックリとご覧下さい」と言うのだが、皆が慌てて手を引っ込め後ずさりするのが、何故だか分からない。

それにしても、普通に出るションベンがこんなにも有り難く嬉しいなんて……。

しみじみと生きている幸せを味わう瞬間です。

ふるさと越後・上杉藩を藩祖とする山形米沢藩主、上杉鷹山（ようざん）を故ケネディ大統領が「私のもっとも尊敬する日本人」と言ったのも、鷹山が心身障害者の妻を限りなくいたわり、その愛情を藩政全般に敢行していたことを知ったからであります。

過去の栄光と格式にとらわれたまま旧態依然としていた上杉藩へ迎えられ、切迫している藩財政の建て直し施策を次々と打ち出し、自ら実行して改革を積極的に行い、また、リーダーとは「してみせて、いって聞かせて、させてみる」ことであると言っています。

一つのことを決めるのは決断力、先見力、判断力、行動力を必要とします。

わが東京同窓会も何年ぶりかにリーダーが替わりました。鷹山の如き改革をなされた前任会長の数々の実績を賞賛し、そしてリーダーとしての資質を備えた新会長のもと「夢とロマン」のある同窓会を皆さんと共につくっていきましょう！　**金子鶴男（高５）**

第６回親睦ゴルフ会開催

平成１８年１０月５日（木）、松高東京同窓会の第６回親睦ゴルフコンペが、埼玉県の入間カントリー倶楽部に於いて開催された。

当日は生憎の雨模様であったが記念撮影後、９時３１分にスタートとなる。今回は体調不良などによる欠席者が多く、日頃から年令相応に体力の維持・強化と節制に努められん事をお願いするのみ‥‥。

午前中はぱらつく程度の雨も午後は時々激しく降る中、スコアメイクに苦しみながらも無事終了。一風呂浴びてサッパリした後パーティと表彰式で一息つき、来春の再会を約して散会となった。今回も吉井氏のご尽力に謝意。

成績（敬称略）

優勝・築野理恵子、準優勝・吉井清、３位・瀬倉武志

参加者名（順不同・敬称略）

１組　吉井清、鈴木輝雄、大橋貞夫、築野理恵子

２組　亀山知明、瀬倉武志、大島惣四郎、坂上卓夫

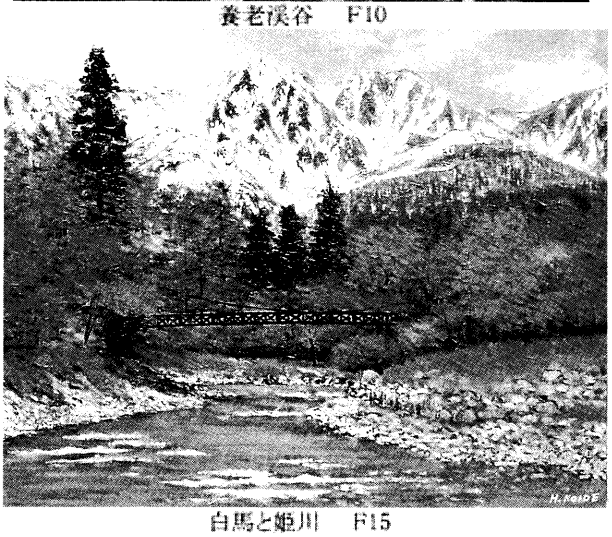
平常心で‥‥

第８回五泉応援団総会での鏡開き

平成１８年１１月１１日、九段のホテルグランドパレスに４５０名余りが参加して開催された。

――個展のお知らせ――

養老渓谷　F10



白馬と姫川　F15

第９回　小出博三氏（高８回）油絵展

■会期　‘０７／３月４日(日)～３月１０日(土)
AM11:00～PM7:00 最終日はPM5:00まで

■会場　東京交通会館Ｂ１（シルバーサロンＡ）
ＪＲ線　有楽町駅　京橋口　下車正面
地下鉄　有楽町線　有楽町駅　下車Ａ８出口

アトリエ●〒274-0812 船橋市三咲7-22-20　TEL047-448-9632

第７回親睦ゴルフ会のお知らせ

平成１９年４月５日（木）、入間カントリー倶楽部に於いて第７回親睦ゴルフ会を開催いたします。

春先には真に見事な桜が咲き誇り、プレーをしながらの桜見物をお楽しみいただけます。同窓会の皆様！どうぞ奮ってご参加下さいますようお待ち申しております。

参加を希望される方は下記までご連絡ください。

吉井　清　（高８回）TEL&Fax 042-527-6482

亀山　知明（高３回）TEL 042-572-5096

2006年、国内の主な出来事

1月 ・正月三が日の人出9373万人（407万人増）
・5日～7日 寒波で日本海側大雪、新潟県津南町で積雪383cm
・21日 東京都心で積雪9cm
・24日 ライブドア堀江社長証取法違反で逮捕
2月 ・4日 列島寒波、八丈島で60年ぶり積雪3cm
・10日（日本時間11日）トリノ五輪開幕
・24日 五輪フィギュア女子で荒川選手が優勝
・民主党の永田衆院議員、ニセメール問題騒動
3月・21日 WBCで日本がキューバを10対6で破り初代世界チャンピオンとなる
・21日 東京、横浜で桜開花宣言
4月・川崎市多摩区で小学生がマンションから男に投げ落とされ殺害される
・2005年に672万人の外国人が訪日過去最高
・26日 耐震強度偽装事件で姉歯一級建築士、木村建設社長、イーホームズ社長ら8人逮捕
・29日 卓球世界選手権で日本女子は銅メダル
5月・1日 今年一番の暑さ、練馬区で31.1度
・米1ドル114.91円、日経平均17,153.77円
・15歳以下の子供は1747万人で25年連続減少
・ヤンキース松井選手、守備中に左手首骨折
・14日現在、巨人23勝12敗で首位独走
・23日 首都圏、日照不足で野菜の価格高値
・全国的に社会保険事務所で不正手続き発覚
6月・1日 道路交通法改正、駐車違反監視民間委託
・2005年の国内自殺者32,252人で227人増
・村上ファンド代表、証券取引法違反で逮捕
・12日 サッカーW杯ドイツ大会始まる
・13日 都電が都電に追突し30余人けが
・15日 秋田県藤里町で小1男児殺害される
・15日 巨人がオリックスに負け8連敗
・23日 サッカーW杯、日本はブラジルに1：4で敗れ一次予選で敗退
7月・5日 北朝鮮が日本海へミサイル6発を発射
・9日 サッカーW杯ドイツ大会でイタリア優勝
・19日 記録的な大雨により長野、福井、岡山、島根の4県で死者行方不明20余人
・30日 2005年の平均寿命は女性85.49歳、男性78.53歳で前年よりやや短くなる
・30日 関東甲信地方つゆ明け
8月・14日 首都圏140万戸停電…原因は隅田川でクレーン船が送電線を損傷
・22日 第88回全国高校野球選手権大会で西東京大表の早稲田実業高が優勝
・25日福岡市「海の中道大橋」で酒酔運転車に追突された乗用車の子供3人が死亡
9月・6日 秋篠宮妃紀子さま男児ご出産
・100歳以上は28,395人（厚生労働省発表）
・15日 オウム真理教元代表・麻原彰晃被告にサリンテロ事件の首謀者として最高裁で死刑判決
・18日 台風13号が九州・中国地方に暴風域、死者9名けが250余名…JR九州で特急列車横転
・23日 川崎市宮前区のトンネル歩道で深夜、帰宅途中の女性が刺殺される
・25日 川口市の市道で保育園園児がライトバンに突っ込まれ園児3人が死亡、2名重態、園児・保育士12人が重軽傷の大事故
・26日 安倍内閣誕生
・28日 裏金問題で岐阜県職員、4421人処分
10月・ 4日 兵庫国体の高校野球で早稲田実業高優勝
・10日 プロ野球セ・リーグ中日が優勝
・13日 プロ野球パ・リーグ日本ハムが優勝
・23日 佐藤・前福島県知事、収賄容疑で逮捕
・26日 日本シリーズ、日本ハム4勝1敗で終了
・各地の高校で必修科目の授業カットが発覚し問題化
・全国の小、中、高等学校で、イジメによる自殺者絶えず

○ 原稿締切りの関係で11月、12月は掲載を割愛させていただきます。

編集後記

明けましておめでとうございます
本年もよろしくお願いいたします。

古来、日本の囲碁界には鬼才と謳われる棋士が数多くいた。近年になり、カミソリ坂田や殺し屋加藤、コンピューター石田、宇宙流の武宮などと異名で呼ばれる棋士も数多い。

対局中は他人の助勢など絶対に禁止で、全て自分の責任で戦うわけである。凡人の及ばざる思考回路を駆使して盤面に集中し、勝敗を決するのであるが、終局後には必ず数人で検討を繰り返し、反省を含めて最善手の勉強をするのである。だからプロ棋士に、一人善がりの考えや思い込みなどはある筈もない。黒石と白石を交互に打っていく中で、互いに競り合う場面がある。その折衝で双方が互角の別れになると研究されてきた打ち方を定石という。しかし、最善と思われてきた定石も、ルールの変更や時代と共に変化して行く事もある。殆どを定石だけで打っても最善手の応酬とはならず簡単に負けることがある。それは、盤面の全体を眺めず、夢と構想を持たないからで、個々の定石を目的に向って有機的に活用し、当初の構想を実現すれば拮抗した好勝負を可能にする。

組織も夢を実現するため皆が同じ方向に力を合わせれば目的は達成されるのではないかと考える。どのような夢を描き、どのように実現して行くか？会員諸氏のお力添えが求められている。諸氏のご健勝を心より祈念すると共に、本年の無事を願う。

広報・大橋貞夫

平成19年1月 第42号 表紙の題名・題字は佐伯益一氏（旧中27） 書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

新潟県立村松高等学校 東京同窓会事務局
〒201－0005 狛江市岩戸南2－14－14
Tel & Fax 03－3488－2117（石黒）